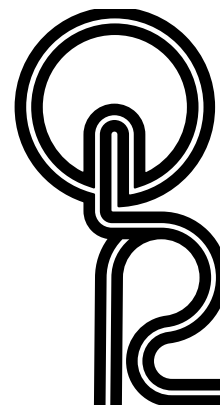
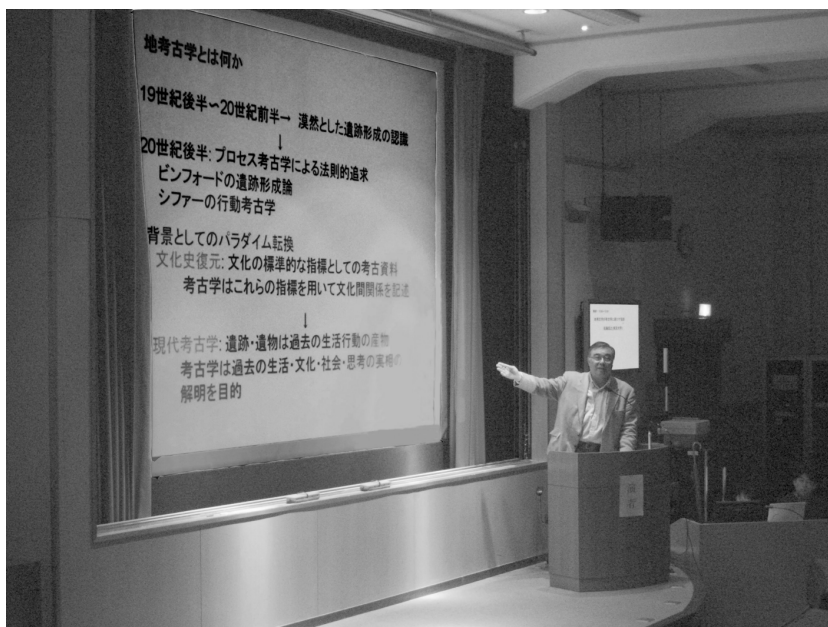


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 15 No.2, 2008



「日本第四紀学会シンポジウム 考古遺跡から何が分かるか? - Geoarchaeology」は参加者が110名を超え、盛況だった。詳細は本号中の報告記事を参照されたい。写真は、世話人の一人でもある佐藤宏之会員の講演の様子。(第四紀学会広報 撮影)

Vol. 15 No. 2

April 1, 2008

地球惑星科学連合大会プログラム・2	幹事会議事録・・・・・・・・・・22
2008年大会案内(第2報)・・・・・・7	「三宅賞」・「奨励賞」候補者募集・・24
メーリングリスト移行について・・11	国際アジア海洋地質会議案内・・・・24
第四紀学会シンポジウム報告・・12	日本堆積学会大会案内・・・・・・25
新研究委員会紹介・・・・・・14	訃報・・・・・・・・・・26
第四紀学会講習会のお知らせ・・16	第52回粘土科学討論会・・・・・・27
会則改定案意見募集・・・・・・17	学生会員継続届・・・・・・28
評議員会議事録・・・・・・17	会員消息・・・・・・・・・・28

## 日本地球惑星科学連合2008年連合大会プログラム

日本地球惑星科学連合2008年連合大会が下記のとおり開催されます。2008年連合大会には3000件を超える発表が申し込まれ、6日間の会期で開催されます。日本地球惑星科学連合が発足して満三年となりますが、地球惑星科学を学際的に盛り上げていく場として合同大会の意義は一層重要となります。みなさまの積極的な参加を期待しています。

期日：2008年5月25日(日)～30日(金)

場所：幕張メッセ国際会議場

大会詳細：<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>

確定プログラムプログラムweb公開：2008年4月7日

各セッションの日程と会場は上記大会ウェブサイトで確認できます。

事前参加登録(割引料金)締切：2008年4月11日(金)正午

### 第四紀関連オーラルセッション(一部抜粋)

日	時間	セッション名	会議室
5月25日	9:00～12:15	G120：堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報	202
5月26日	9:00～10:30	L216：低緯度域の気候変動と間接指標の開発	202
5月26日	13:45～17:00	J238：サンゴ礁：生命・地球・人の接点	101B
5月26日	13:45～17:00	L132：古気候・古海洋変動	301B
5月27日	9:00～12:15	J237：活断層と地震災害軽減	303
5月27日	13:45～17:00	S141：活断層と古地震	303
5月27日	13:45～17:00	Q140：沖積層研究の新展開	301A
5月27日	13:45～17:00	L133：海と陸の気候－過去から現代までの変動解明へのアプローチ(1日目)	101
5月28日	9:00～10:30	L133：同上(2日目)	101
5月28日	9:00～12:15	X156：人間環境と災害リスク	101A
5月28日	13:45～17:00	Q139：第四紀	301B
5月29日	9:00～12:15	Z159：地形	101B
5月29日	9:00～10:30	T228：連動型巨大地震	国際会議室
5月29日	9:00～12:15	W155：コア研究が拓く地球環境変動史	101A
5月29日	13:45～17:00	J238：南極から探る地球環境変動	NOA

各セッションのポスター発表は、ポスター共通コアタイムとして、5月28日のみ17:00～18:30、他の日は17:15～18:45に設定されていますが、2008年大会より、セッションによっては他のセッションの開催時間中(9:00～17:00)に独自のコアタイムが設定されている場合もありますので、ご注意下さい。

### 日本第四紀学会提案セッション

3月12日現在での暫定的なプログラムです。発表者は筆頭から3名までだけが記されています。確定したプログラムは3月19日頃に発表者に通知され、4月7日以降大会ウェブサイトを確認できます。

### セッションQ139『第四紀』オーラルセッション

5月28日(水)13:45～17:00 幕張メッセ国際会議場301B

13:45～14:00 田村糸子・高木秀雄・林 広樹

東京都江東区地下1217mより発見された鮮新世ざくろ石テフラとその対比

14:00～14:15 大里重人・野口孝俊・金澤直人

建設中の東京国際空港D滑走路周辺の地下地質 その1 - 全体概要 -

- 14:15 ~ 14:30 中里裕臣・井上敬資・佐藤弘幸  
千葉県北東部，多古チャネル埋積層の層序
- 14:30 ~ 14:45 田村 亨・村上文敏・渡辺和明  
隆起速度の違いによる相対海面変動の空間多様性: 九十九里浜平野での復元
- 14:45 ~ 15:00 丹羽雄一・須貝俊彦・大上隆史  
複数のボーリングコアの電気伝導度に基づく濃尾平野における完新世相対的  
海面変化
- 15:00 ~ 15:15 岩崎英二郎・須貝俊彦・栗田泰夫  
ボーリングコア解析に基づく熱田層および沖積層の堆積環境の比較
- [ 休憩 ]
- 15:30 ~ 15:45 伊津野郡平  
二枚貝の殻高殻長比が示すハメリンプールのストロマトライト形成時期の塩  
分濃度推定と保護への提案
- 15:45 ~ 16:00 青木かおり  
ガラスのフィッシュン・トラック年代と化学組成に基づく北西太平洋におけ  
る阿多鳥浜テフラの同定
- 16:00 ~ 16:15 片山 肇  
日本海海底の音波探査反射面分布から推定される大山倉吉軽石(DKP)と山  
陰1テフラ(SAN1)の関係と分布域
- 16:15 ~ 16:30 古澤 明  
Glass inclusionの主成分分析によるテフラの識別 - 大山テフラDNP ,DSP ,  
DKPの識別を例として -
- 16:30 ~ 16:45 山田真誉・鈴木毅彦  
東北日本弧南部，奥会津・奥鬼怒地域における海洋酸素同位体ステージ6河  
成段丘を用いた隆起量推定
- 16:45 ~ 17:00 三好崇之・石橋克彦  
沈み込んだフィリピン海プレートの形状からみた近畿三角帯周辺のネオテク  
トニクス

セッション Q139 『第四紀』ポスターセッション

5月28日(水)幕張メッセ国際会議場 コアタイム 17:00 ~ 18:30

- 1 鹿島 薫  
ヨルダン南部に分布する完新世の化石オアシス地形(沼池痕跡)とその古環境学的意義
- 2 Rashid Towhida・Monsur Md. Hussain・鈴木茂之  
Reconstruction of Holocene paleoenvironment and evidence of sea-level changes  
in the central part of the Bengal Basin
- 3 Bhuiyan Mohammad A. H.・隈元 崇・鈴木茂之  
Evaluation of the Changing behavior of Brahmaputra-Jamuna River and consequent  
impacts on Landforms and Environment of Bangladesh
- 4 小岩直人・松本秀明・渡邊洋平  
タイ南西部の浜堤列平野におけるインド洋大津波時の津波堆積物の粒度組成
- 5 佐藤明夫・大井信三・千葉 崇  
完新世における北海道白老 - 鶴川海岸平野発達史と堆積環境変遷
- 6 田力正好・安江健一・柳田 誠  
庄内川(土岐川)流域の河成段丘と地形発達
- 7 若林 徹・須貝俊彦・笹尾英嗣  
完新統の分析に基づく自然起源重金属元素の濃尾平野における地理的分布の変遷の復元  
と評価
- 8 千葉 崇・遠藤邦彦  
珪藻の殻径と底質粒度組成の関係から見た珪藻遺骸群集の形成過程 - 千葉県小櫃川河口  
域を例に -

- 9 石川 智・鈴木毅彦・中山俊雄  
珪藻分析による奥東京湾海進・海退過程の復元
- 10 細矢卓志・野口孝俊・大里重人  
建設中の東京国際空港 D 滑走路周辺の地下地質 その 2 - 浅部層序と構造 -
- 11 金澤直人・野口孝俊・細矢卓志  
建設中の東京国際空港 D 滑走路周辺の地下地質 その 3 - 深部層序と構造 -
- 12 鈴木毅彦・村田昌則  
多摩・房総・銚子地域における前期更新世上総層群黄和田層とその相当層のテフロクロ  
ノロジー
- 13 松島紘子・須貝俊彦・水野清秀  
関東平野北西部における中期更新世以降の海岸線の復元
- 14 山口正秋・中里裕臣・水野清秀  
関東平野中央部における 350m ボーリング, 菖蒲コア (GS-SB-1) にみられる更新統の  
堆積サイクル
- 15 山口和雄・加野直巳・大滝壽樹  
埼玉県加須低地の浅部反射断面
- 16 杉原重夫・弦巻賢介・長井雅史  
塩原カルデラを起源とする大田原火砕流堆積物のフィッシュン・トラック年代
- 17 大井信三・山家慎之助・北村京子  
茨城県瓜連丘陵最上部の第四系火砕質イベント堆積物とその起源
- 18 小林真生子・百原 新・岡崎 浩子  
沖ノ島遺跡から見つかった植物化石群の堆積季節の推定
- 19 堀内大嗣・多田隆治・中川 毅  
Causes for the changes in Mn content and Ti/K ratio in sediment from Lake  
Suigetsu during the last glacial period
- 20 芦田貴史・奈良正和・里口博文  
音響層序およびシーケンス層序解析からみた過去約 5 万年間の琵琶湖水面変動史復元
- 21 宇根 寛・津沢正晴・今給黎哲郎  
新潟県中越沖地震に伴う地表変動と被害分布
- 22 宮本 毅・奥野 充・菅野均志  
白頭山 10 世紀巨大噴火以降の噴火活動の再検討
- 23 北村 繁  
中米・エルサルバドル, イロパングカルデラ 3 ~ 5 世紀噴火の影響の再評価

セッション Q140 『沖積層研究の新展開』 オーラルセッション

5月27日(火) 13:45 ~ 17:00 幕張メッセ国際会議場 301A

- 13:45 ~ 13:46 世話人挨拶・主旨説明
- 13:46 ~ 14:01 岡 孝雄 西南北海道西海岸, 後志利別川流域の沖積層
- 14:01 ~ 14:15 ト部厚志・白石千尋  
越後平野西部の沖積層における堆積システムと鉱物組成の変化
- 14:15 ~ 14:30 石原武志・須貝俊彦・水野清秀  
埼玉県北部低地における沖積層の層序と古環境の変遷
- 14:30 ~ 14:45 木村克己・田辺 晋・石原与四郎  
首都圏東部に分布する沖積層の総合的研究 - 6年目: 層序ボーリング調査,  
3次元可視化, 超軟弱粘土の動的特性 -
- 14:45 ~ 15:00 石原与四郎・江藤雅佳子・田辺 晋  
沖積層ボーリングデータベースを用いた 3次元モデルの構築とその活用
- 15:00 ~ 15:15 本田孝子・ト部厚志・田辺 晋  
東京低地東縁の GS-KNJ-1 コアに含まれる火山碎屑物の層序とその対比

[休憩]

- 15:30 ~ 15:45 竹村貴人・小田匡寛・赤間友哉

- 15:45 ~ 16:00 沖積層の動土質力学的特性から見た堆積環境の重要性  
北田奈緒子・井上直人・竹村 恵二
- 16:00 ~ 16:15 関西圏における表層地質の分布状況 ~ 西大阪平野と東大阪平野地域 ~  
三田村宗樹・塚田 豊・大島昭彦
- 16:15 ~ 16:30 大阪平野における沖積粘土層の形成過程と鋭敏性  
谷川晃一朗・加藤茂弘・佐藤裕司
- 16:30 ~ 16:45 兵庫県円山川下流域における沖積層層序と堆積環境  
川村教一
- 16:45 ~ 17:00 四国北部の臨海沖積低地の更新統および完新統の層序と対比  
七山 太・Islam Md Badrul・斎藤文紀  
Onshore sedimentation and erosion due to 2007 Cyclone Sidr in  
Sundarban East, Bangladesh

閉会挨拶

セッション Q140 『沖積層研究の新展開』 ポスターセッション  
5月28日(水) 幕張メッセ国際会議場 コアタイム 17:00 ~ 18:30

- 1 吉川秀樹・重野聖之・七山 太  
新しい大口径検土杖の試作と北海道東部沿岸湿原～湖沼地域における採取実験
- 2 小松原純子・中島 礼・田辺 晋  
埼玉県戸田市で掘削された沖積層ボーリングコアGS-TKT-1の堆積相と荒川低地の沖積層分布
- 3 江藤稚佳子・石原与四郎・田辺 晋  
開析谷の横断方向における堆積相の分布と粒度組成・C/N比：中川低地の沖積層の例
- 4 中尾有利子・中西利典・木村克己  
中川低地南部の沖積層から産出した貝形虫化石
- 5 北田奈緒子・井上直人・竹村恵二  
大阪平野の表層地盤構造 - ボーリングデータベースから見えてくること -

セッション S141 『活断層と古地震』 オーラルセッション  
5月27日(火) 13:45 ~ 17:00 幕張メッセ国際会議場 303

- 13:45 ~ 14:00 八幡 啓・山崎晴雄  
千葉県旧周南村における関東地震の家屋被害 - 地形・地質要因と推定震度分布 -
- 14:00 ~ 14:15 石橋克彦  
「地震・噴火史料データベース(古代・中世編)」のインターネット公開
- 14:15 ~ 14:30 高木秀雄  
断層活動の年代測定 - シュードタキライトと断層ガウジを用いて
- 14:30 ~ 14:45 石山達也・杉戸信彦・越後智雄  
石狩低地東縁断層帯の古地震活動・平均変位速度と地下構造
- 14:45 ~ 15:00 副田宜男・宮内崇裕  
変動地形と断層モデルからみた東北日本背弧の上部地殻短縮変形と地形形成
- 15:00 ~ 15:15 金 幸隆・岩崎貴哉  
信濃川西縁逆断層帯のセグメント区分(案)

[ 休憩 ]

- 15:30 ~ 15:45 岡村行信・村上文敏  
2007年中越地震に関連する活褶曲と活断層
- 15:45 ~ 16:00 宇根 寛・飛田幹男・小沢慎三郎  
SAR干渉画像にあらわれた‘お付き合い’地殻変動
- 16:00 ~ 16:15 池田安隆・岩崎貴哉・伊藤谷生  
糸魚川 - 静岡構造線中部を横切る反射法地震探査(辰野 - 諏訪側線)

- 16:15 ~ 16:30 杉戸信彦・松多信尚・澤 祥  
変動地形からみた糸静線活断層帯中南部，茅野 - 白州の断層構造
- 16:30 ~ 16:45 任 治坤・林 愛明  
1850 西昌 M7.5 地震断層の構造特徴とそのチベットテクトニクスの意義
- 16:45 ~ 17:00 林 愛明  
昆崙断層東部セグメントにおける千年周期の大地震と断層沿いの不規則な変位速度

セッション S141 『活断層と古地震』ポスターセッション  
5月27日(火)幕張メッセ国際会議場コアタイム 17:15 ~ 18:45

- 1 重野聖之・長友恒人・須崎憲一  
根室地域で発見された津波堆積物とテフラのルミネッセンス法による年代測定
- 2 佐々木亮道  
庄内平野東縁断層帯北部の断層変位地形
- 3 楮原京子・今泉俊文・石山達也  
真昼山地西麓のアクティブテクトニクス
- 4 今泉俊文・石山達也・宮内崇裕  
常磐 - 三陸海岸での津波堆積物調査
- 5 青柳恭平・阿部信太郎  
航空レーザー計測による 2007 年新潟県中越沖地震の震源域周辺の広域地形
- 6 小林健太・大川直樹  
新潟県中越，鳥越断層露頭における構造解析
- 7 岡田真介・池田安隆・戸田 茂  
長野盆地西縁断層帯における地下構造とその発達史
- 8 都司嘉宣・行谷佑一  
元禄地震 (1703) の詳細震度分布
- 9 島崎邦彦・原口 強・石辺岳男  
旧江戸川で見いだされた地震痕跡
- 10 金山健太郎・小林健太  
関東山地北東縁，中央構造線とその周辺における構造地質学的研究
- 11 藤原 治・澤井祐紀・守田益宗  
静岡県中部浮島ヶ原の地層に記録された過去 1500 年間の環境変動と地震沈降
- 12 松多信尚・澤 祥・杉戸信彦  
糸魚川 - 静岡構造線活断層帯中南部，茅野 - 富士見 - 上円井の変動地形の再検討と写真測量システムを利用した詳細平均変位速度解明
- 13 穴倉正展・越後智雄・行谷佑一  
隆起生物遺骸群集に記録された過去の能登半島地震
- 14 道家涼介・竹内 章  
岐阜県飛騨市神岡町佐古における断層露頭と跡津川断層東部の最新活動
- 15 宮下由香里・二階堂学・高瀬信一  
跡津川断層帯茂住祐延断層の活動履歴
- 16 石山達也・佐藤比呂志・越後智雄  
養老・桑名断層境界部における P 波反射法地震探査：多度 - 桑名測線
- 17 石村大輔  
柳ヶ瀬 - 関ヶ原断層帯の断層変位地形と地形発達
- 18 垣内佑哉  
琵琶湖西岸断層帯北部の活構造および地形発達
- 19 平井絢子・宮田隆夫・苦瓜泰秀  
地中レーダを用いた，神戸 - 芦屋地域の甲陽断層による旧河川の変位の評価
- 20 宮田隆夫・甲藤寛之・洪 景鵬  
六甲山地東部，芦屋断層のから分岐する八幡谷断層 (新称) の分布と活動性

- 21 吉岡敏和・徳田博明・細矢卓志  
山崎断層帯，琵琶甲断層および三木断層の活動履歴
- 22 越後智雄・郡谷順英・岩崎孝明  
中央構造線断層帯，根来断層登尾および枇杷谷地区における活動履歴調査
- 23 後藤秀昭  
中央構造線活断層帯・池田断層の平均変位速度
- 24 堤 浩之・中田 高・渡辺満久  
西山断層帯の南北延長部における断層変位地形の再検討
- 25 金田平太郎・Rockwell Thomas K.  
活断層の受動的変位と固有変位 - 東カリフォルニア剪断帯，キャンプロック断層を例として -
- 26 奥村晃史  
トルコ・アナトリアプレートの内部変形と古地震

## 日本第四紀学会2008年大会案内（第2報）発表申し込み

### <大会の概要>

1. 日時・開催場所：2008年8月22日（金）～8月24日（日），東京大学本郷キャンパス  
学部1号館小柴ホール（東京都文京区本郷7-3-1）  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html)
2. 日程
  - 8月22日 一般研究発表（口頭及びポスター）・評議員会
  - 8月23日 一般研究発表（口頭及びポスター）・総会・懇親会
  - 8月24日 シンポジウム
  - 8月25～26日 巡検「関東東部沿岸域の地質・地形・人間活動」
3. 発表の申し込み締め切り：2008年6月5日（木）
4. シンポジウム  
「第四紀後期の気候変動と地球システムの挙動 - その原因とメカニズムの解明に向けて - 」  
世話人：三浦英樹・横山祐典ほかを予定  
全て依頼講演になります。詳細については次号で案内。
5. 巡検の概要  
8月25～26日 巡検「関東東部沿岸域の地質・地形・人間活動」。  
詳細と申し込みは次号で案内。
6. 普及講演会（一般市民を対象）  
場所・日時は未定  
「極限のフィールドワーク：南極観測からわかる地球環境変動の過去と未来」
7. 大会実行委員会  
実行委員会委員長 多田隆治  
連絡先：実行委員会事務局長 三浦英樹  
〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10  
国立極地研究所  
E-mail : miura(atmark)nipr.ac.jp  
Tel : 03-3962-8095  
Fax : 03-3962-5741

< 発表の申し込み >

注意！ 発表の申し込み方法が今年度より一部変更となりました。ご注意ください。

1. 一般研究発表の申し込み

一般研究発表は口頭発表とポスターセッション(詳細は,要旨集原稿の送付先の後にあります)が行われます。登壇者(筆頭者)としては1人1件のみの発表が可能です。

一般研究発表希望者は,日本第四紀学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/qr/>)より,「2008年第四紀学会発表申込書」(MS-ExcelまたはMS-Wordファイル形式)をダウンロードし,氏名・所属,講演題目,代表者の連絡先,発表種別・形式,使用機器の種別,その他特記事項(ある場合)など必要事項を入力し,ファイル名を代表者の漢字氏名に変更した上で,添付ファイルとして行事担当幹事(suzukit(atmark)tmu.ac.jp)宛に,6月5日(木)までに送信下さい(申込書ファイルは4月中旬以降にホームページに掲載予定)。送信いただければ,昨年まで要旨集原稿送付時に必須であった紙媒体の「発表申込用紙」は提出不要になります。また,本発表申し込み末尾の「4.講演要旨執筆上の注意」を熟読の上,その内容を理解し,遵守するようお願いいたします。このことについての同意の意思表示は,申込書該当欄に氏名を入力することで成立するとします。なお,電子メールが使用できない場合,10ページにある「発表申込用紙」(コピーでもよい)に所定の事項を記入の上,講演要旨と伴にお送り下さい。

講演要旨は,「3.講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピー1部と共に6月5日(木)までに行事担当幹事まで送付下さい(必着厳守)。講演要旨原稿は2ページ分執筆してください。原稿の行事担当幹事への到着をもって原稿の受付とします。

要旨集原稿の送付先:

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
首都大学東京都市環境学部地理環境コース  
日本第四紀学会行事担当幹事  
鈴木毅彦 あて

Tel: 042-677-2590 (直通) FAX: 042-677-2589

E-mail: suzukit(atmark)tmu.ac.jp

(原稿送付は郵便でお願いします。メール添付は受け付けていません。また送付先は実行委員会ではありませんお間違えのないようにご注意ください)。

口頭発表(オーラルセッション)およびポスターセッションでの発表時間は1件15分程度(質疑応答時間を含める)を予定しています(発表件数によって変更の可能性あり)。十分な説明や討論を希望する方にはポスターセッションへの申込をお勧めします。またポスター発表者には口頭ショートサマリー発表(1件あたり2~3分程度)をお願いするほか,ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

2. シンポジウムの原稿提出

今回は依頼講演者のみが対象となります。シンポジウムで発表される方は,「3.講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿およびそのコピー1部を6月5日(木)までに上記の行事担当幹事までお送り下さい(必着厳守)。原稿枚数は2ページまたは4ページでお願いします。また,日本第四紀学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/qr/>)より,「2008年第四紀学会発表申込書」(MS-ExcelまたはMS-Wordファイル形式)をダウンロードし,氏名・所属,講演題目,代表者の連絡先,発表種別・形式,使用機器の種別,その他特記事項(ある場合)など必要事項を入力し,ファイル名を代表者の漢字氏名に変更した上で,添付ファイルとしてsuzukit(atmark)tmu.ac.jp宛に,6月5日(木)までに,送信下さい(申込書ファイルは4月中旬以降にホームページに掲載予定)。送信いただければ,昨年まで要旨集原稿送付時に必須であった紙媒体の「発表申込用紙」は提出不要になります。また,本発表申し込み末尾の「4.講演要旨執筆上の注意」を熟読の上,その内容を理解し,遵守するようお願いいたします。このことについての同意の意思表示は,申込書該当欄に氏名を入力することで成立するとします。なお,電子メールが使用できない場合,10ページにある「発表申込用紙」(コピーでもよい)に所定の事項を記入の上,講演要旨と伴にお送り下さい。



### 3. 講演要旨の原稿の書き方

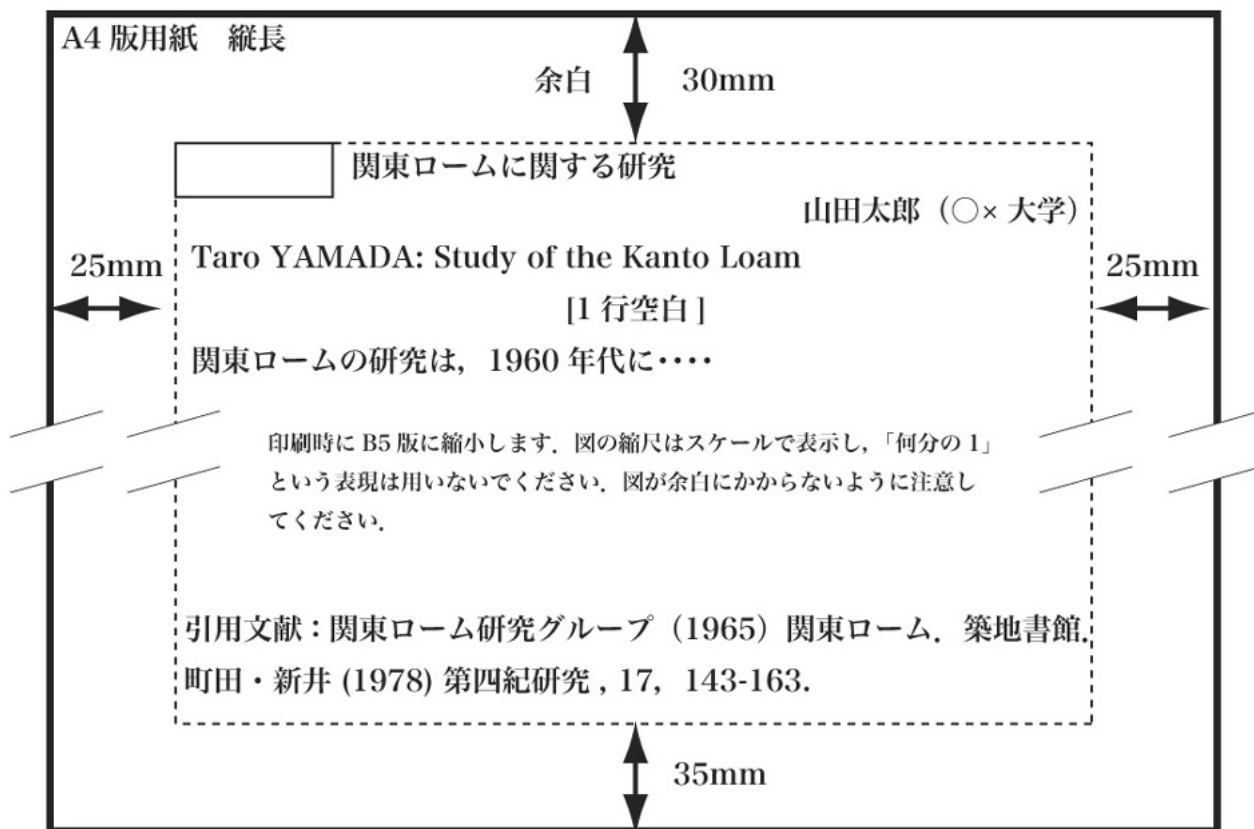
原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5 cm、上端3.0 cm、下端3.5 cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1行目の左側を1.5 cm あけて(左端から4.0 cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5 cm あけて左詰めで続けてください。和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5 cm あけて右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いてください。英文著者名・表題は和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつないで書いてください(所属は不要)。本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。ワープロ使用の場合は濃く印字してください。手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合には黒インクを使用し原稿用紙に直接書くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようにご注意下さい。印刷時にA4の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで必ずスケールを入れてください。

### 4. 講演要旨執筆上の注意

日本第四紀学会出版物等利用規定(2006年8月4日決定)が講演要旨に適用されるかについては、2008年3月現在、知的財産権等検討委員会の答申を受けて幹事会等で検討中です。従いまして講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、以下の点について問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まぬこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか(2005)第四紀研究, 44, 371-381。」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

### 講演要旨の書き方の例



### 発表申込書

(電子メールで下記の内容を送信すれば本申込書は郵送不要)

氏名・所属				
講演題目				
代表者の連絡先	〒			
	e-mail:	TEL:	FAX:	
発表種別	一般研究発表			シンポジウム
(○をつける)	口頭発表	ポスター	どちらでもよい	
液晶プロジェクター・OHPの使用 (○をつける)	液晶プロジェクター	液晶プロジェクター+OHP	OHP	その他
「講演要旨執筆上の注意」を理解し、その内容を遵守するならば、右にサインして下さい。				
				サイン _____

## 第四紀学会メーリングリスト サービス提供会社変更に伴う各種重要事項の説明

2008年3月20日  
日本第四紀学会幹事会

本学会では、2004年学会事務センター破綻の折、会員への緊急連絡用としてメーリングリスト（以下、jaqrml）を発足させました。jaqrmlは当初、会員名簿に登載されておられる方のメールアドレス（以下、アドレス）を登録させていただきました[第四紀通信11巻5号]。その後、個別にお申し出のあったアドレスの新規登録、変更および削除などを経て、目下約980アドレスが登録されています。またjaqrmlは緊急連絡のみならず、一般情報提供にも供することとなり[第四紀通信11巻6号]、現在は会員に有益と思われる情報（例：各種集会や助成金、人事公募など）を幹事会で選別して必要最小限の配信を行っています。なお、jaqrmlは本学会幹事会のうち幹事長、庶務幹事および広報幹事のみに登録・変更権限および投稿権限が与えられており、一般登録会員は受信のみ可となっています。jaqrmlに投稿を希望される場合、広報幹事に記事を送っていただくのはそのためです。

さて、jaqrmlは発足時からカームコンピュータ株式会社（大阪市中央区）が提供する有償メーリングリストサービスを利用してきました。これまで同社に特段の問題はなく2007年8月に年間契約を更改したところですが、2008年1月31日に突如サービス休止の通告がありました。これは、2008年4月30日で全サービスを休止するというものです。支払済み料金については、サービス休止以降の分が返還されることとなっています。

幹事会ではこの問題の対応策を協議してきましたが、別会社と契約を結びjaqrmlを継続することを今般決定しました。あわせて以下の移行措置を執ることとなりましたので、お知らせします。会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。不明な点は広報幹事にお問い合わせ下さい。

広報幹事・事務局連絡先は本案内の最後に掲載します。

### 1. 経過

2008年1月31日 カームコンピュータより、本年4月30日でメーリングリストサービスを休止する旨の通知あり。既納金は返還することのこと。

同2月2日 本学会評議員会で概要報告。

同2月8日 幹事会内で経過報告および新メーリングリストの体制を協議。

同3月1日 第6回幹事会にて協議、新契約先の選定。

### 2. 新メーリングリストの運用方法および記事の配信方法

jaqrmlは新たなサービス提供元と契約を結び、運営を続けます。新jaqrmlの運用ルールについては現状維持とします。すなわち、アドレスの登録・変更・削除処理および投稿処理は権限をもつ管理者のみが行うこととします。登録アドレスは1会員1件とします。配信されるメールは全てウィルスチェックを行います。

記事投稿を希望する方は、従前どおりメールかFAXで広報幹事に連絡下さい。メールの場合、できるだけ平文テキストを本文貼り付けをお願いします。画像や複雑な書式の文書は添付ファイルでの投稿も可能ですが、メール1通の総容量は10MBを超えることができません。

### 3. サービスの新たな提供元

新jaqrmlは、(株)春恒社が提供する有償メーリングリストサービスを利用します。なお、同社は本学会事務局の委託先でもあります。従来、会員異動の際の各種届出先は2つの窓口がありました（住所・所属先等は事務局、jaqrmlアドレス変更等は広報幹事）が、今後は事務局で一元管理することとなりました。

#### 4. 移行についての案内【重要】

- (1) jaqrml の停止と再開・・・現 jaqrml は 2008 年 4 月 18 日（金）17 時で停止します。これ以降、現 jaqrml からの配信はしません。新 jaqrml の運用開始は 5 月 1 日（木）の予定です。移行中の緊急情報は学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/qr/> に掲載します。
- (2) 現 jaqrml に登録されているアドレスの移行ポリシー・・・現 jaqrml に登録されているアドレスは、新 jaqrml には自動継承されません。次に述べるように、新 jaqrml には学会事務局の名簿に 4 月下旬時点で登載されているアドレスが登録されます。その理由は、アドレスは学会事務局でも把握していますが、現 jaqrml に登録されているものと符合しない例が見受けられること、会員退会後も現 jaqrml から抹消されていないアドレスがあり、学会事務局名簿との間で整合がとれなくなりつつあること、などです。
- (3) 新 jaqrml に自動登録されるアドレス・・・2008 年 4 月下旬時点で学会事務局の名簿に登載されているアドレスは、新 jaqrml に自動的に登録されます（複数登録されている場合は勤務先アドレスを優先）。登録を希望しない方は学会事務局に 4 月 18 日までに連絡して下さい。
- (4) 新 jaqrml に自動登録されないアドレス・・・4 月下旬の時点で学会事務局の名簿に登載されていないアドレスは、たとえ現 jaqrml で受信できていても新 jaqrml には自動登録されません。新規加入や異動の際に学会事務局にアドレスを届け出て以降、アドレスに変更があり、それを再度連絡していない場合（過去に全く届けていない場合も含む）は新 jaqrml には自動登録されないのをご注意下さい。心あたりのある方は現 jaqrml の受信アドレスと最新会員名簿（2007 年 6 月版）を照査のうえ、学会事務局に連絡して下さい。5 月以降、jaqrml が届かなくなったという方は、お手数ですが学会事務局に連絡下さい。
- (5) 新 jaqrml へのアドレスの再登録・修正・削除・・・新 jaqrml 運用開始後のアドレス新規登録、再登録、変更および削除については随時学会事務局に連絡して下さい。受付後、処理には最大約 2 週間を要します。
- (6) 現 jaqrml でのアドレスの新規登録・変更・脱退・・・学会事務局に連絡下さい。変更の方は旧アドレスも書いて下さい。会員資格等が確認でき次第、現 jaqrml の処理を行います。なお、おおむね 4 月 15 日までに連絡があった分は現 jaqrml に登録・変更等が反映されますが、それ以降は新 jaqrml でのみ対応となります（学会事務局に連絡があった方については名簿を修正し、新 jaqrml に自動登録されます）。また、サーバへのコマンド（majordomo）送付による自動変更手続き〔第四紀通信 11 巻 5 号・6 号〕は、会員資格等の確認に時間がかかるので、今後は受け付けません。

<お問い合わせ・連絡先>

広報幹事 専修大学・苅谷愛彦 (kariya(atmark)isc.senshu-u.ac.jp FAX 044-900-7814)  
 学会事務局 担当 中川庸幸 (daiyonki(atmark)shunkosha.com, FAX 03-5291-2176)

## 日本第四紀学会シンポジウム報告

山岡拓也（首都大学東京 都市教養学部）

日本第四紀学会シンポジウム「考古遺跡から何が分かるか？ - Geoarchaeology」が 2008 年 2 月 2 日（土）に、東京大学法文 2 号館 1 番大教室（本郷キャンパス）で開催された。シンポジウムの世話人は佐藤宏之（東京大学）・出穂雅実（札幌市埋蔵文化財センター）両氏である。当日は 112 名の参加者があり盛況であった。シンポジウムの趣旨は、近年注目を集めている地考古学（考古遺跡の複雑な形成過程を、関連諸科学の方法を援用して再構築する、考古学の一学問分野）の具体的な取り組みを報告し、その有効性について議論するというものである。シンポジウムは 5 つの研究報告と 2 つのコメントからなる。報告者は、佐藤宏之（東京大



総合討論の様子（撮影：東京大学考古学研究室）

学),井上智博(大阪府文化財センター),野口淳(明治大学校地内遺跡調査団),出穂雅実(札幌市文化財センター)の各会員と中沢祐一氏(ニューメキシコ大学)であり,この順で発表があった。報告の後,早田 勉会員(火山灰考古学研究所)と町田 洋会長(東京都立大学名誉教授)よりコメントがあった。

最初に,佐藤会員により地考古学的方法的意義が解説された。特に,地質学や土壌学等では「典型的」なフィールドや地点を模式地として,一定地域における一般的な形成プロセスやメカニズムの解明を主目的とするのに対し,地考古学では,遺跡で認められる個別的で複雑な自然/文化的変化作用の解明が主目的に置かれることに注意を促した。

これ以降の報告は,遺跡調査における地考古学の実践的研究である。井上会員の報告は,大阪府河内平野における池島・福万寺遺跡の調査研究より得られた,微地形・極微地形の形成過程と,それに応じた弥生時代と中世末の土地利用についてであった。野口会員は,武蔵野台地に立地する下原・富士見町遺跡の調査からの知見を報告した。特に,これまで調査例が少な

かった立川面の地形形成と遺跡立地に関する説明が興味を引いた。出穂会員からは,北海道上幌内モイ遺跡旧石器地点における調査研究成果に関する報告があった。遺跡の位置と地形・地質,層序ユニットと堆積物,放射性炭素年代から,遺跡の「自然形成過程」が詳論された。一方,中沢氏からは,同じく上幌内モイ遺跡旧石器地点を対象とした「文化形成過程」の復元に関する報告があり,遺跡形成過程に関わる複雑な人間活動の一端を解きほぐした。

以上の講演について,2つのコメントがあった。早田会員からは,火山灰編年学の立場から地考古学の実践上の具体的問題が指摘された。続いて,町田会長により,遺跡周辺での地形形成と遺跡形成との関わり,地考古学と関連分野とが共通の専門用語を確立させていく必要性等の指摘があった。

講演・コメントの後に設けられていた討論では,時間の関係上,議論が尽くせなかった感もあるが,質疑の内容は地考古学の方法論への興味を窺わせるもので,地考古学の今後の発展につながる第一歩となったことであろう。

日本第四紀学会シンポジウム

## 考古遺跡から何が分かるか

### Geoarchaeology

日時: 2008年2月2日(土) 13:30-17:10  
場所: 東京大学法文2号館1番大教室  
(本郷キャンパス)  
古参加費無料・事前登録不要

プログラム:

- 13:30-13:50 地考古学が考古学に備える役割(sampling, probably lost) (佐藤 誠)
- 13:50-14:20 大阪府河内平野における地景形成と土地利用の関係  
—池島・福万寺遺跡の検討— (井上智博)
- 14:20-14:50 武蔵野台地に於ける旧石器時代遺跡の形成過程  
—下原・富士見町遺跡を中心に—  
(野口 淳・宮崎 政雄・明治大学校地内遺跡調査団)
- 14:50-15:00 休憩
- 15:00-15:30 北海道上幌内モイ遺跡旧石器地点の自然形成過程 (出穂雅実)
- 15:30-16:00 北海道上幌内モイ遺跡旧石器地点の文化形成過程 (中沢祐一)
- 16:00-16:15 地考古学実践の課題について—火山灰編年学の立場から— (早田 勉)
- 16:15-16:30 第四紀学からのコメント (町田 洋)
- 16:30-17:10 総合討論

主催: 佐藤 誠 (東京大学)・出穂雅実 (札幌市文化財センター)  
協賛: 池田 孝 (佐賀大学)・東京大学大学院人文科学研究科  
〒113-0033 東京都文京区本郷1-1-1 TEL: (03-5841-3700・3706)

## 新研究委員会紹介

2008年2月2日の評議員会にて、以下の5つの研究委員会が承認されました。活動計画の概略とともに紹介します。活動期間は基本的には2008年2月から4ヵ年間となりますが、研究会によっては多少異なります。なお、提案者・活動内容・活動期間等の詳細は、第四紀学会ホームページに掲載しています。各研究委員会に参加を希望される方は、代表者に直接連絡を取ってください。

### 1. 「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」研究委員会

代表者：小野 昭（首都大学東京 E-mail: ono(atmark)tmu.ac.jp）

酸素同位体ステージ3(OIS3)で示される年代幅には人類の進化史、道具の製作技術史、現代的な認知構造の展開や芸術活動の開始問題など、どれをとっても重要な問題が集中している。こうした諸問題をめぐりヨーロッパを中心に議論されてきた資料的な前提、研究の問題意識、論点を明らかにし、それをふまえて東アジア、日本列島における当該期の環境変動と考古学がかかえる問題の解明を試みることを本研究委員会の目的とする。

具体的には、OIS3の中頃の人類の生活痕跡の追及、年代論、時期区分論、東北アジアの同時期の遺跡との関係など、基礎的な論点を環境変動との関連において問題解明を進める予定である。当該期の気候変動、動・植物相、地形環境、テフラ分析などについても考古学の検討課題と共に研究会活動のなかで成果発表の機会を設けたい。あわせて、東北アジア地域の当該期の解明を第四紀学的な観点を強化して日本、韓国、中国、ロシアの研究者と連携をとりながら進める。

OIS3の中頃は、人類学的には新人 Homo sapiens が西アジアに到達し、そこから西へ拡散してヨーロッパへ、また東に拡散してアジア各地へ広がる頃と一致する。考古学的にはユーラシアの中期旧石器時代から後期旧石器時代への移行期に当たり、石器製作技法だけでなく骨器など有機質試料を素材とした道具のセットがどのように成立したか、またその移行が不連続か連続かで長く議論されてきた。考古学との関連でOIS3問題がヨーロッパで組織的に取り組まれたのは、The Stage 3 Project であり、その課題は45000～30000年間における気候の寒暖ならびに景観の記述と推定、後期旧石器時代初頭の人類の時空分布の解明であった。日本の場合、旧石器時代遺跡と遺物の捏造事件以来、日本列島における確実な人類の住居はいつ

かがあらためて問われているが、現状では確実な資料は少なくともOIS3の中頃まで確実に遡ると言える。こうした遺跡資料の位置づけが日本列島以外のOIS3の段階の遺跡との比較論としても重要である。

INQUAの Commission on Palaeoecology and Human Evolution (PAHE)とは既に連携を取り、第5WG: Human colonization and paleoenvironmental contexts in China, Mongolia, and adjoining East Asiaに当委員会を位置づけるよう申し出、了解を得た。2008年6月下旬に集会を開催する予定で、外国からの招聘者を含め、中部ヨーロッパの後期旧石器時代の開始時代、26000年を超える較正年代の可能性などを議論する。

### 2. 古気候変動研究委員会

代表者：公文富士夫（信州大学 E-mail: shkumon(atmark)shinshu-u.ac.jp）

気候変動を巡る課題は大きな社会問題となっており、第四紀学会はその期待に応えうる有力な学術団体である。INQUAでも古気候学の研究グループ(PALCOM)は非常に活発に活動しており、日本第四紀学会の中に、古気候学を中心をおく研究組織が活発に活動することは大変重要である。

日本および東アジアを中心とした古気候変動の解明を進め、また世界の古気候研究(PALCOM)との連携を図ることを目的とする。例えば、以下に例示するようないくつかのサブグループ(作業チーム)を編成して、具体的な目標を掲げて活発な活動と成果の公開を目指す。

A: 3万年前から現在までの高精度解析 日本・東アジア版の INTIMATE

B: 中・後期更新世の気候変動：陸域と海域の統合

C: 更新世のヒマラヤ・チベットの隆起活動と東アジア・モンスーン変動

D: 古火災史(database)

具体的な課題と目標については、関係者が集まるワークショップ等を開催し、INQUAの国際的動向を踏まえつつ、明確にする。

### 3. “地球温暖化問題”を検討する研究委員会

代表者：陶野郁雄（E-mail: tohno111(atmark)view.ocn.ne.jp）

地球温暖化に対する世の中の関心は、日本国内でも国際的にも従来にない高まりを見せ、誰しもが地球の将来に心配を抱くような状況になっている。こうした状況の中で、日本第四紀学会も現在起こりつつある地球温暖化の理解や、その地球環境変遷史における位置づけ、過去から現在に至る環境変動研究に基づく未来予

測等々、大きな関わりを持ってきた。国際的にもIPCC報告における第四紀研究者の貢献は大きいものがある。その中で、現在、注目を集めている異常気象や気候異変と呼ばれる現象を専門的な立場から捉えること、現在進行しつつある海面上昇について過去の事例から見通しを立てること、海面上昇によってもたらされる低地部・島嶼部の土地条件の悪化や災害に対する脆弱化を検討すること、アジア内陸部をはじめ世界的に重要な水資源となっている山岳氷河の急速な後退と予想される深刻な水問題を捉えること、温暖化の下で進行する沙漠化や乾燥・半乾燥地域の環境悪化やダストの増大を科学的手法で示すこと、海水温の上昇や気温上昇に基づく多様な生物の変化の兆候を捉えること、など多くの課題が存在する。これら身近に存在する多くの現象が気候変化とどのような時間差とメカニズムで応答するのか、過去から現在に至る長い時間スケールで環境変遷を捉えてきた第四紀研究者の目から“地球温暖化問題”を科学的に捉えなおし、より長期的視野から社会に対して地球温暖化の真の理解とあるべき対策を提案することが必要になっていると考える。

ここに提案する“地球温暖化問題”を検討する研究委員会」は、以上のような視点から“地球温暖化問題”を検討すると共に、身近に存在する“地球温暖化問題”を掘り起こし、その意味やあるべき対策を社会に向けて呼びかけ、普及を図ることを目標とする。このアウトリーチ的側面については、会員外のメンバーを含む『身近な地球温暖化フォーラム』を定期的に開催し、また冊子の作成やWeb Pageを通じて第四紀研究の成果と共に普及することを考えている。委員は公募し、メールを用いて連絡や意見交換を行う。

本委員会で扱うテーマはIPCCと密接な関係があり、その成果をIPCCにフィードバックさせることを目標とする。INQUA CommissionとしてはPALCOMMなどと、それに加えIGBP-PAGESとも関係しているため、当面は対応するこれらの国内委員会との協力関係を築く予定である。

#### 4. テフラ・火山研究委員会

代表者：長岡信治(長崎大学 E-mail: shin(atmark)nagasaki-u.ac.jp)

INQUA International Focus Group on Tephrochronology and Volcanology (INTAV)はCommission on Stratigraphy and Chronology (SACCOM)の下にテフラ研究者が情報を交換し、研究を推進させる国際的な組織である。これまでINQUA内の組織編成の変更に伴い、様々に名称が変更されてきたが、持続性を持って運営されてきた。一方日本

国内においても第四紀学会内にそれらに対応する研究委員会が運営され、2007年度までテフラ研究者の情報交換の場となり、研究を推進させてきた。

第四紀学におけるテフラ研究の重要性は従来から広く認められているが、とくに最近、テフラ研究者数が増加し、日進月歩の勢いで研究が進展している。こうした傾向は「第四紀研究」誌上におけるテフラ関連の論文数増加にも現れている。すなわち、テフラ研究の持つ重要性は内外の第四紀研究の中で低下することなく、同分野において引き続き重要な位置を占めると思われる。とくに、日本のテフラ研究は、質や研究者数から見ても、世界のトップレベルにあり、その成果を世界に発信することが国際的に期待されている。活動計画にもあるが、それに応ずる機運も高まっている。一方で、テフラ研究で手薄な分野もあり、それらに対する研究環境の整備や研究者間の問題意識の共有など、研究委員会で取り組むことのできる問題も多い。このような状況からみてテフラ・火山研究委員会に対する期待も大きいと判断でき、引き続き、活動を継続する。

活動計画は以下に示すとおりである。

(1)COT-COTAVの活動として、これまでInternational Field Conference and Workshopがカナダ、フランス、ドイツ、ニュージーランド、アメリカ、アイスランド等で開かれた。近年の野外集會やINQUAでは日本での開催が話題に上がり、日本開催の機運が高まりつつある。2006年度におけるテフラ・火山研究委員会では、日本招致について基本的な合意が得られている。したがって2009年度内を目処に、日本国内においてInternational Field Conference and Workshop開催を計画するが、その準備・実行は本委員会が中心になる。

(2)これまでのテフラ研究の成果は論文ベースあるいは書籍形式でまとめられているが、ほとんどの研究分野では、これまで蓄積された研究成果は、電子データ化されつつある。一方、国内のテフラ研究の成果は、少数例を除くと電子データ化されていない状況にある。近年、電子データ化を目指す研究事例も始まりつつあるが、研究委員会ではそのような研究を支援し、また、電子データ化を推進する上での問題点・情報を共有する場を提供する。

(3)1年～数年に1回程度、国内にて野外巡検を伴う研究集會を開催し、テフラ関連の諸分野における最新の研究成果を内外の研究者に紹介し、研究者間の交流の機会を与える。また、これを通じて国内におけるテフラ研究の発展を促す。関連する諸分野はできる限り広く考え、テフラ研究の基本となる層序・対比だけでなく、火山学・岩石学・地形学・環境変遷学(陸上と

海域)・考古学をはじめ,火山灰編年学を支える分析技術,年代測定法なども対象とする。

5. 古地震・ネオテクトニクス研究委員会

代表者:吾妻 崇(文部科学省 E-mail: t-azuma(atmark)aist.go.jp)

本委員会はINQUAのTerrestrial Processes, Deposits and History(TEEPRO)に申請中のFocus Area: Paleoseismicity and Active Tectonicsに対する国内活動を推進することを主な目的とする。主な活動として,上記Focus Areaの活動への参加と国内への活動状況の提供を行うほか,古地震およびネオテクトニクスに関する野外観察を中心とした研究集会を,年に1回程度の頻度で企画・実施する。

現在申請中のFocus Area: Paleoseismicity and Active Tectonicsでは,2003-2007年の期間においてINQUA Sub-commission on Paleoseismicityが進めたINQUA Scale Projectを引き継ぎ,世界各地における地震による諸事象の記録をデータベース化とその区分

の体系化を目的とするProject: A Global Catalogue of Earthquake Environmental Effectsを実施する予定である。これまで国内においては,上記のINQUA Scale Projectに対して試行的な事例研究を進め,その成果をSub-commissionが開催する会合で発表してきた。今後は新しいProjectへの協力の一環として国内の古地震データの拡充を図ると共に,Projectに関連した活動成果の積極的な公表に務める。

また,本委員会の前身である「ネオテクトニクス研究委員会」が毎年実施してきた野外集会を継続して行う予定である。2005年に中越地震の震源域周辺地域を,2006年に糸魚川-静岡港造船活断層系北部を,2007年に能登半島地震と能登半島の海成段丘を,それぞれ研究テーマとして野外調査を実施した。今後もその時に関心の高い地域を対象とした野外集会を行うことを予定しており,2008年には中越沖地震に関連したテーマが候補として挙げられる。

## 日本第四紀学会講習会のお知らせ

### 「土器の野焼きと調理に関する実験考古学」

下記の内容で,東北芸術工科大学北野研究室との共催による第四紀学会講習会を開催いたします。参加費は500円で,保険(学会負担)をかける関係上事前登録が必要です。

日時:2008年6月7日~8日

会場:東北芸術工科大学 〒990-9530 山形市上桜田3-4-5

概要:土器の製作技術や機能・用途の研究に民族考古学,実験考古学の果たす役割は大きい。特に考古資料の諸痕跡を解釈するための基礎研究として両者は欠くことができない。今回は実験考古学のワークショップを中心として,以下の2つのテーマを取り上げる。

- 1 弥生時代以降に列島に広がった「覆い型野焼き」のバリエーション
- 2 古代のカマドや炉による「土鍋調理」のスス・コゲ

日程:

6月7日(土)14:00~

発表:民族誌からみた土器の野焼き技術  
古代の土鍋のススとコゲ  
未定

小林正史(北陸学院短期大学教授)  
北野博司(東北芸術工科大学准教授)  
庄田慎矢(東京大学特別研究員)

6月8日(日)8:30~13:00

野焼き・調理実験ワークショップ

実験の観察・記録作成を参加者の皆さんで行います。昼食は調理実験のご飯や鍋を食べていただきます。

雨天の場合は日程が変更になることがあります。

参加費:500円

事前登録:必要 5月31日までに下記まで連絡ください。

問合せ先:北野博司(東北芸術工科大学歴史遺産学科)mail: kitano(atmark)aga.tuad.ac.jp

TEL: 023-627-2026(直通), FAX: 023-627-2272(共通)



## 第四紀学会会則改訂案，特に「除名」規定追加修正に関する意見募集

日本第四紀学会幹事会

第四紀学会では、この数年間にわたって、倫理憲章の制定、「第四紀研究」論文などに関する出版物等利用規定、保証書、著作権等譲渡同意書の作成など、知的財産権や倫理に関する法的な整備に取り組んでまいりました。さらに知的財産権等検討委員会によって指摘されている提案は、重大な知的財産権・倫理違反者に対して、除名することができるという条項を会則に盛り込むことです。現在多くの学会で、このような除名規定が会則中に表現されています。現行の会則では、会費長期滞納者にのみ「除名」することができることになっていますが、会費長期滞納者については評議員会の議を経て「除籍」できることとし、あらたに会員が第四紀学会の名誉を著しく傷つけた場合や倫理憲章あるいは会則に著しく抵触する行為があった場合に、総会の議を経て会長により「除名」されることがあるとする会則改訂案を提案する方向で幹事会では現在検討を進めています。この点に関して、反対などのご意見があれば、お寄せ下さい。ご意見は幹事長・水野清秀あて、電子メールでお送りいただければ幸いです（k4-mizuno(atmark)aist.go.jp）。

### 2007年度第2回評議員会議事録

日時：2008年2月2日（土）10：00～13：00  
場所：東京大学本郷キャンパス法文2号館1番大教室

議長：山崎晴雄

出席者：町田 洋（会長）、遠藤邦彦（副会長・評議員）、吾妻 崇、池原 研、海津正倫、大場忠道、岡崎浩子、小野 昭、菊地隆男、公文富士夫、小泉武栄、佐藤宏之、鈴木毅彦、辻誠一郎、長友恒人、中村俊夫、三浦英樹、水野清秀、本川雅治、百原 新、山崎晴雄、米田 穰（以上、評議員）、苅谷愛彦（幹事）、奥村晃史（学術会議）、中川庸幸（事務局）。委任状15通

鈴木行事幹事の司会で、町田会長挨拶に続き、山崎晴雄評議員が議長に選出され、定足数確認の後、以下の報告と審議が行われた。

#### I. 報告事項

##### 1. 2007年度事業中間報告

##### 1-1 庶務（吾妻幹事）

- (1) 会員動向(2007年12月31日現在)正会員1621名(うち、学生会員66名、海外会員22名を含む)、名誉会員13名、賛助会員12社、総計1643。
- (2) 2007年度第1回評議員会を2007年8月31日に神戸大学において開催した。議長：菊地隆男。2007年度総会を2007年9月1日に神戸大学において開催した。議長：三田村宗樹。これらの詳細は、議事録として第四紀通信14巻5号に掲載した。
- (3) 引用許可の受付、会員名簿整理、寄贈図書への受付を行った。
- (4) 学会・シンポジウム・講演会等の共催、後援：北淡活断層シンポジウム2008：2008年1月12

日（土）～1月13日（日）〈後援〉

- (5) 2008年日本第四紀学会学会賞および学術賞選考に向けて、学会賞受賞者選考委員の選挙を行なった。会長から推薦された10名の候補者に対して、評議員による選挙を行なった結果、以下の5名が候補者として選出された：小野 昭、齋藤文紀、大場忠道、小泉武栄、真野勝友（次点）山崎晴雄。また、会員に向け学会賞等候補者の推薦を依頼中である。
- (6) 2008年日本第四紀学会論文賞および奨励賞選考に向けて、論文賞受賞者選考委員の選挙を行なった。会長から推薦された11名の候補者に対して、評議員による選挙を行なった結果、以下の5名が候補者として選出された：井内美郎、稲田孝司、犬塚則久、池田安隆、久保純子（次点）松島義章。また、会員に向け論文賞等候補者の推薦を依頼中である。
- (7) 日本学術振興会へ科研費審査委員候補者情報提供にあたり、評議員へ推薦を依頼したが、該当者はなかった。
- (8) 会費長期滞納者への対応として、2回の振込依頼を行なった。3月に再度依頼を行ない、対応がなかった場合には除籍扱いとする予定。

##### 1-2 編集（岡崎幹事）

- (1) 第四紀研究第46巻5号（論説2編、短報1編、資料2編、書評1編、46ページ）、6号（論説3編、総説6編、96ページ、特集「津波堆積物と地震性タービダイト：防災・減災のための堆積物記録の理解」）、第47巻1号（論説3編、短報2編、70ページ）刊行済。
- (2) 2007年神戸大会特集号は第47巻3号で刊行予定。
- (3) 1月19日現在、受理済み論文は12編で第47巻2号以降に順次掲載の予定である。また、手持原稿は19編（論説：12編、短報：6編、講座：

1編)である。論文投稿数は、2007年28編(特集号原稿16編および書評を除く)で、昨年(39編)よりも減少している。2005年からの減少傾向が続いている。また、当年に取り下げ・掲載不可となった原稿は7編であり、昨年と同じである。一方で、投稿受付から刊行までにかかった時間の最短は、9か月程度であった。今後は第四紀学会主催以外の特集も積極的に受け付けていく。

- (4)第47巻より英文タイトルのスタイルを改めた。また、「執筆要項」の見直しをすすめている。編集状況や問題は「編集委員会だより」を通じて、会員に知らせるように努めている。
- (5)J-STAGEによる電子ジャーナル公開は8月から行っている。第45巻1-6,46巻1号が公開されている。刊行後1年以内の号についての全文検索は、会員のみ利用可能であり、IDとパスワードにて管理される。アブストラクトと刊行後1年以上経過した号については、会員外も含めて利用可能である。

#### 1-3 行事(鈴木幹事)

- (1)日本第四紀学会2007年大会を神戸大学百年記念館において2007年8月31日~9月2日に開催した。8月31日~9月1日に一般研究発表を行い、口頭35件(キャンセル1件を含む)、ポスター34件、合計69件の研究発表が行われた。また、31日夕方に評議員会、1日に総会を行った。9月2日には、シンポジウム「瀬戸内海の変遷-自然、環境、人」を開催し、11件の発表が行われた。1日の午後には、一般研究発表会と同時進行で、神戸大学瀧川記念学术交流会館にて、公開講座「大地の変動と地震・津波」が神戸大学都市安全研究センター・神戸大学内海地域環境教育研究センターとの共催、兵庫県立人と自然の博物館の協力の下、開催された。さらに今回は、「中越沖地震・能登半島地震」に関する緊急セッションが31日昼休みの時間帯に急遽追加され、日本活断層学会設立準備委員会、日本地理学会災害対応委員会の後援をうけて進められ、趣旨説明を含めて3件の口頭発表、8件のポスター発表が行われた。大会の参加者は、3日間を通して、219名(会員154名、非会員65名)であった。また、9月3日~4日にかけては、「淡路島と東播磨平野の大阪層群および高位段丘層と活断層地形」と題する巡検が行われ、13名が参加した。
- (2)日本第四紀学会2008年大会の準備を行った。大会は、東京大学本郷キャンパスにおいて、一般研究発表・総会を2008年8月22日(金)と23日(土)に、シンポジウムを8月24日(日)に開催し、野外巡検を8月25~26日(月・火)に関東東部沿岸域において実施する予定で準備が進められている。実行委員会は東京大学と国立極地研究所のスタッフを中心とする会員である。このほか、シンポジウム内容および一般市民を対象とした普及講演会について現在検討中である。なお、今大会では発表申込として、従

来通りの「発表申込み用紙」を行事担当幹事宛に郵送する方法に加えて、電子メールでも受け付けることを予定している。

#### 1-4 広報(荻谷幹事)

- (1)「第四紀通信」14巻5号(2007年10月)と14巻6号(2007年12月)を刊行した。同15巻1号(2008年2月発送予定)の編集、印刷を行った。
- (2)「第四紀通信」(電子版)14巻5号、6号と15巻1号を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。
- (3)2007年10月中旬より同年12月末日まで、2007年大会緊急セッションの講演要旨(修正・電子版)5件を日本第四紀学会ホームページに掲載した。
- (4)日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。主なものは、2006年度研究委員会活動報告、日本第四紀学会学会賞・学術賞・論文賞・奨励賞の募集、日本第四紀学会50周年記念国際シンポジウム案内、日本第四紀学会シンポジウム、2008年大会案内、日本地球惑星科学連合2008年大会案内、だいやんきQ&A、第四紀研究目次、などである。
- (5)第四紀学会会員メーリングリストを通じて、シンポジウム、研究集会、公募等の広報活動を行った。2007年9月~2008年1月15日までのメーリングリスト投稿数は32件である。2008年1月15日現在のメーリングリスト登録アドレスは980件である。なお、現在契約しているメーリングリストサービスが4月末で打ち切られることになり、それ以降の新メーリングリスト体制を検討することになっている。

#### 1-5 渉外(三浦幹事)

- (1)日本地球惑星科学連合:2007年11月6日、東京大学理学部で第6回評議員会が開催され、新規加盟学会、運営会議活動、将来構想委員会中間答申の報告、日本地球惑星科学連合第3期(2006年10月~2007年9月)決算報告および第4期(2007年10月~2008年9月)予算案が承認された。
- (2)日本地球惑星科学連合2008年大会:日本第四紀学会が単独でセッション提案母体となっている『第四紀』、日本地質学会と共同開催で提案している『沖積層研究の新展開』、日本地質学会・日本地震学会と共同開催で提案している『活断層と古地震』の各セッションが開催される。会期:2008年5月25日(日)~30日(金)、会場:幕張メッセ国際会議場。各種オンライン手続きの日程は、予稿集原稿:受付開始は1月10日、早期締切:2月1日17:00、最終締切:2月7日12:00。大会参加登録:受付開始は1月10日、4月11日12:00締切。投稿、受付登録等は、すべて合同大会公式web site(<http://www.jpgu.org/meeting/>)で行う。
- (3)自然史学会連合:平成19年度の連合の講演会「いきもの・ひと・みずの自然史」が2007年11月25日に滋賀県立琵琶湖博物館で開催された。

2007年12月16日に国立科学博物館で2007年度総会が開催された。講演会の開催、ロレックス・インスティテュートが行うロレックス賞 (<http://www.rolexawards.jp>)への応募の呼びかけ、博物館部会、ホームページの維持管理についての報告に続いて、2006年度決算、2007年度会計経過報告、2008年度予算案、連合代表(中央大学の西田治文氏・日本植物分類学会)の再任、運営委員・役員の変更について審議承認された。

- (4)「地質の日」事業推進委員会：2007年8月22日に産総研臨海副都心センター別館で第1回地質の日事業推進委員会が開催された。経緯説明に続いて、委員長：東京地学協会の中尾征三氏、副委員長：神奈川県立生命の星・地球博物館の平田大二氏および産総研地質調査情報センターの栗本史雄氏を選出、本委員会の正式名称を「地質の日事業推進委員会」とすることが承認され、今後の活動方針および資金問題について議論が行われた。

#### 1-6 企画(佐藤幹事)

- (1)学会主催のシンポジウム「考古遺跡から何がわかるか? : Geoarchaeology」を本日(2008年2月2日)午後に、東京大学法文2号館にて開催する。世話人は、佐藤宏之・出穂雅実会員で、地考古学の意義、平野部の遺跡形成、旧石器遺跡の地考古学分析等に関する会員内外5名の講演と会員2名によるコメント、総合討論が行われる。
- (2)2006年1月に実施した第四紀学会主催のシンポジウム「大都市圏の地盤 - 私たちの生活とのかかわり - 」の特集原稿4編が第四紀研究に掲載されることになった。また2007年2月のシンポジウム「自然史研究におけるフィールドの活用と保全」の特集が、産総研地質調査総合センターが編集する雑誌「地質ニュース」の2007年12月号(第640号)に生まれ、表紙・口絵と8編の論文が掲載された。
- (3)講習会に関しては、現在調整中である。このうち考古学関係のテーマについては、地域の埋蔵文化財センターとの共催の可能性を検討している。また大型植物化石の研究法に関する講習会を実施する予定で、日程等の調整を行っている。

#### 2. 2007年度会計中間報告

百原会計幹事より、資料1(省略)に基づき、2007年12月31日現在での収支会計中間報告が行われ、予算がほぼ予定通り執行されている旨説明があった。

#### 3. 50周年記念事業実行委員会報告(吾妻幹事・遠藤副会長代理報告)

##### 3-1 募金活動

募金活動を引き続き行ない、最終的に計347名から募金が寄せられ、募金総額は4,088,000円となった。

##### 3-2 国際シンポジウム「アジア・西太平洋の第四紀:

##### 環境変化と人類」

日本第四紀学会50周年記念、GSJ125周年記念として日本第四紀学会・産業技術総合研究所の共催で国際シンポジウム「アジア・西太平洋の第四紀: 環境変化と人類: Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific」が産業技術総合研究所で開催された。会議の概要は以下の通りである。

##### (1) 会議日程等

日時: 2007年11月19日(月)~11月22日(木)

場所:

11月19日15時~20時

登録とアイスブレイカー(地質標本館)

11月20日~22日 研究発表(共用講堂1階 [大ホール, 多目的室, 小中会議室])

11月20日夕食時

懇親会(厚生B食堂)

##### (2) 協賛・後援など

後援: 日本学術会議, 国際第四紀学研究連合(INQUA)の沿岸海洋過程委員会(CMP), 古生態と人類進化委員会(PAHE), 層序年代委員会(SACCOM), 陸域過程, 堆積物と地史委員会(TERPRO)

協賛: 国際惑星地球年(IYPE)国内委員会

##### (3) 参加者

当日の参加登録を含めて、海外15ヶ国からの35名を含めて143名が登録参加。この他にスタッフとして17名が協力した。日本以外の各国の参加人数: 韓国(7), 中国(6), 台湾(3), ロシア(4), ベトナム(2), モンゴル(2), ドイツ(2), 米国(2), カナダ(1), オランダ(1), ベルギー(1), タイ(1), インドネシア(1), ニュージーランド(1), フランス(1)。国内の外国人参加者を除く。

##### (4) セッションと発表, 講演要旨集

初日午前と最終日午後は、プレナリーの講演からなり、初日午前には、佃栄吉GSJ代表、日本学術会議連携会員・INQUA副会長の奥村晃史広島大学教授の歓迎の挨拶の後、日本第四紀学会町田洋会長、中国第四紀研究委員会委員長のLIU Jiaqi中国科学院院士、韓国第四紀研究委員会委員長のPARK Yong Anhソウル国立大学名誉教授、台湾を代表してCHEN Yue-Gau国立台湾大学教授から、各国の第四紀学会また第四紀研究の活動報告が行われた。またドイツ第四紀学会会長のBÖSE Margotベルリン自由大学教授から日本第四紀学会(JAQUA)の50周年に対して謝辞が述べられた。基調講演は、初日にWANG Pinxian中国同済大学教授と町田洋会長、最終日の午後にニュージーランドのDavid LOWEワイカト大学教授とオランダのThijs VAN KOLFSCHOTENライデン大学教授により行なわれた。研究発表は、6つのセッションによる口頭発表とポスター発表により合計で99件の発表が行なわれた。

セッション1. 西太平洋とその縁海の古海洋研究(口頭6, ポスター15)

コンピーナー: 大場忠道(北海道大学), 池原研(産総研)

セッション2. ジャワ島における初期人類の編年と

地質環境(口頭6)

コンピーナー: 松浦秀治(お茶の水女子大学)

セッション3. アジア・太平洋地域の沿岸環境変化と人間活動(口頭8, ポスター15)

コンピーナー: 斎藤文紀(産総研), 横山祐典(東京大学)

セッション4. 酸素同位体ステージ3と2における東北アジアの環境変動と人間の居住(口頭6, ポスター8)

コンピーナー: 小野 昭(首都大学東京)

セッション5. アジアにおける第四紀地殻変動: 地形発達と人間活動への影響(口頭7, ポスター12)

コンピーナー: 吾妻 崇(産総研), Larisa Ganzey(太平洋地理研究所)

セッション6. アジア・太平洋地域の中・下部更新統境界(口頭5, ポスター7)

コンピーナー: 三田村宗樹(大阪市立大学), Margarita Erbajeva(シベリア地質研究所)

セッション7. その他(ポスター4)

講演要旨集は, Geological Survey of Japan Interim Report, no.42, 2007(161p)として出版され, 参加者に配布された. キーノートの講演要旨は, 地質調査総合センターのホームページからダウンロードできるようになる予定.

なお, セッション1, 3, 6において学術誌からの特集号が検討されている.

#### (5) 実行委員会主催のランチョン会合

アジアからの各国を代表する参加者, 第四紀学会関係, 各コンピーナーを招いて, 11月21日の昼食時に第七事業所の別棟大会議室において, 今後のアジアにおける第四紀研究の推進に向けて討議を行ない, 以下の合意を得た. アジアにおいて定期的に開催する第四紀研究に関する国際集会をもつこと, 会の名称は, アジア第四紀研究会議(Asian Conference on Quaternary Research: AsQUA)とすること, 及び中国から第1回会合を2009年に開催することで提案があり, 参加者から賛同を得た(北京原人発見80周年記念の行事に合わせて開催される). 第1回会合に向けての議長は開催国となる中国のLIU Liaqi氏が選ばれた. 会を運営する組織は, 会合優先とし, 次回開催国から議長が選出される. 詳細な体制や会の開催頻度に関しては, 第1回会合で決められる.

#### (6) 産業技術総合研究所国際シンポ実行委員会(印 事務局)

委員長: 佃 栄吉 委員: 栗本史雄, 下川浩一, 斎藤文紀, 池原 研, 水野清秀, 植木岳雪, 吾妻 崇, 宍倉正展, 事務局からの委託先: M&J International  
実行委員以外に, 産総研内から約20名の協力を得た.

#### 3-3 博物館連携委員会

神奈川県立生命の星・地球博物館において日本第四紀学会を紹介するパネル展示を行った(2007年7月21日~11月4日).

(パネル内容: A2サイズのポスター8枚)会長あいさつ『第四紀とは, 日本第四紀学会の研究成果『日本第四紀地図』, 日本第四紀学会の研究対象(自然

の猛威, 地層と化石, 人類の活動の痕跡と年代, 日本第四紀学会の出版物,(当該博物館に関連する説明)

#### 3-4 50周年記念電子出版編集委員会

本学会50周年記念事業の一環として, 電子出版物を刊行すべく, 12名の委員のもとで編集作業を進めてきた. 諸事情により当初の刊行予定が大幅にずれ込むことになったが, 現在, 概説集の校正が済み, CD-ROMの編集作業の最終段階にある. 以下に状況を纏め報告とする.

##### (1) タイトルと内容

第四紀研究および第四紀学会の成果を広く一般や次世代の人々に伝えることをねらいとして, 電子出版物の刊行に取り組んできた. 電子出版物のタイトルを「デジタルブック 最新第四紀学」とした. 11章からなり, 合計97の論文(小項目)を含む. 執筆者は115名. 冊子は, CD-ROMの各章の概説をまとめた印刷物で30ページ. CD-ROMについては現在検索などの作業を進めている.

##### (2) 編集体制

本出版物の編集には以下のメンバーで委員会を構成し, また町田会長に監修をお願いして進めた. 委員会: 遠藤邦彦(委員長), 奥村晃史, 小野 昭, 正田浩司, 鈴木毅彦, 内記昭彦, 中村俊夫, 原口強, 堀 和明, 三浦英樹, 百原 新, 吾妻 崇(事務局). また編集作業にあたり, 飯尾由子さん(産総研), 是枝若奈さん(日大)の協力を得た.

##### (3) 知的財産権に関連する事項

編集途中で学会の知的財産権等の方針が決定されたため, できるだけ「第四紀研究」に準じた対応をすることになった. 執筆者に保証書, 著作権等譲渡同意書の提出をお願いする. 転載許可については編集事務局で一括してとる. レビュー論文が主であることもあって, 既刊の著作物と類似したものがあつて, トラブルが発生しないよう対応を進めている.

##### (4) 必要経費と販売価格について

1000部印刷で, 50周年予算から85万円を予定(冊子印刷費, CD-ROM焼付費, ケース等). 転載に伴う費用が発生する可能性がある.[1000部の内, 寄贈分として200部見込む]販売は丸善経由で行うことを検討している. 定価: 3000円を予定. 会員: 2000円[2000円+送料で学会事務局から発送]

##### (5) 刊行の時期

冊子については校正が済んでおり, CD-ROMについても保証書, 同意書の提出と転載許可の完了を待ってCD-ROM化し, 刊行する.

##### (6) 普及版について

当初の方針では, 普及版を合わせて作成することになっていた. 教育現場に向けたパワーポイント版などを作成する意義は十分にあると考えられるが, 当編集委員会としては「デジタルブック 最新第四紀学」の刊行をもって任務を終了とさせて頂きたい. 普及版の件については改めて本委員会あるいは幹事会で議論して頂きたい.

#### 4. その他

4-1 日本学術会議地球惑星科学委員会INQUA分科

会・INQUA 国内委員会報告（奥村 INQUA 分科会委員長）

(1) INQUA 国内委員会会合

日時：2007年9月1日，会場：神戸大学百年記念館

主な審議事項：INQUA 大会報告（斎藤文紀），INQUA 大会間の国内委員会体制（斎藤文紀委員長），2008年春のINQUA 執行委員会日本開催への対応，INQUA コミッションのプロジェクト提案・研究集会開催，日本第四紀学会 50周年記念国際シンポジウムへの取り組み。

(2) 地球惑星科学委員会国際対応分科会（第20期・第4回）

日時：2007年11月1日，会場：日本学術会議  
主な審議事項：平成20年度代表派遣候補者募集，分科会・小委員会の活動状況報告体制の確立，組織の見直し（小委員会の一部を分科会に附属，幹事組織設置）

(3) 日本学術会議国際対応委員会ヒヤリング

日時：2007年11月19日，会場：日本学術会議  
日本学術会議が加盟している国際学術団体とそれに対応する国内組織の活動状況等について，将来の加盟団体・分担金見直しの基礎データを得るためのヒヤリングが行われ，奥村晃史 INQUA 分科会委員長が，INQUA，INQUA 分科会と国内委員会，および日本の第四紀研究者の活動状況について説明した。日本の第四紀研究の国際的発信，国際的研究でのリーダーシップの発揮，および，日本学術会議の事業の一部としての国際活動を強調すること等を要請された。

(4) 地球惑星科学委員会 INQUA 分科会（第20期・第2回）

日時：2007年12月26日，会場：日本学術会議  
主な審議事項：INQUA 国内委員会の新体制，平成20年度代表派遣候補選考，INQUA プロジェクト提案（2件準備中），INQUA 執行委員会対応，第21期会員・連携会員の推薦，国際対応分科会報告，国際対応委員会ヒヤリング報告，国際シンポジウム報告，2015年 INQUA 招致の検討，2008年国内活動の検討。Quaternary International 特集号の提案。

(5) INQUA 執行委員会の日本開催

日時：2008年4月1日～3日，会場：日本学術会議，参加者：執行部全員とコミッション委員長，Quaternary International 編集長。関連行事：関東南部巡検（3月31日），レセプション（4月2日），講演会あるいはミニシンポジウム（4月4日午後，東京と大阪で同時開催予定）

・ 審議事項

1. 幹事会関係

1-1 学会賞受賞者選考委員の承認

2008年日本第四紀学会学会賞および学術賞選考に向けて，学会賞受賞者選考委員の選挙を行なった結果，小野 昭会員，斎藤文紀会員，大場忠道会員，小泉武栄会員，真野勝友会員（次点：山崎晴雄会員）

が選出され，これら5名の就任が承認された。

1-2 論文賞受賞者選考委員の承認

2008年日本第四紀学会論文賞および奨励賞選考に向けて，論文賞受賞者選考委員の選挙を行なった結果，井内美郎会員，稲田孝司会員，犬塚則久会員，池田安隆会員，久保純子会員（次点：松島義章会員）が選出され，これら5名の就任が承認された。

1-3 研究委員会設置の承認

2007年12月末日までを締切として会員から新たな研究委員会について募集を行った結果，「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学研究委員会」，「古気候変動研究委員会」，「地球温暖化問題」を検討する研究委員会，「テフラ・火山研究委員会」，「古地震・ネオテクトニクス研究委員会」について申請があった（資料2：省略）。各研究委員会の担当者より提案書に基づく研究目的や計画の説明があった。また水野幹事長，吾妻庶務幹事より，以下の補足説明を行った。すなわち，これまでの内規によると，各研究委員会は INQUA の研究委員会に対応する国内委員会としての役割を果たすことを目的としていたが，今後は IPCC，IGBP など関連する国際組織への対応も含めることを考慮したいこと，また，活動費をこれまで一律に分配していたが，活動計画や活動予算について各委員会から説明を受けた後，毎年活動内容に応じて配分比率を決めるようにすること，場合によっては冬のシンポジウムや講習会予算を，研究委員会主催として配分することも検討すること，研究委員会内規改訂案は8月の大会時には提示できるようにするが，今回の各研究委員会の承認基準としては，上述の点を配慮いただきたいことなどである。質疑応答のあと，5件の研究委員会設置が承認された。（各研究委員会の紹介は本通信の関連記事参照）

1-4 知的財産権等に関連した会則改訂・講演要旨集の論文集化等に関する検討

知的財産権等検討委員会からの答申を受けて，会則に罰則規定を設けるかどうか，法務委員会を設置するかどうか，また講演要旨集の著作権をどのようにするのか，論文集化するかどうかなどを幹事会で検討していることについて，水野幹事長が以下のような中間報告を行った。

(1) 知的財産権等検討委員会から提出された会則改訂案について検討し，委員会から指摘された会則の全般的な不備についてはひとまず保留し，会員の除籍・除名に関する条項を優先的に改正することとした。

昨年夏の評議員会及び大会での意見を参考に，会費長期滞納者については除籍，重大な倫理違反者については除名とすることができる項目を追加することには大筋で賛同が得られた。また，除名を検討する法務委員会設置案に対しては，対象となる申立が極めて低頻度で発生するとみられる一方で，委員会の責任は重く，外部の専門家に加わってもらう必要があることから，これを常設で維持することは難しいという意見が出された。

## 2007年度第5回幹事会議事録

むしろ申立があった場合に、早急に評議員会を招集して法務委員会を設置できるように、その設置基準や除名判断の基準となる細則をあらかじめ決めておく必要があると考えられる。

このような考え方を元に、知的財産権等検討委員会から提出された会則改定案・法務委員会規約案・除名細則案を修正してそれぞれの幹事会案(資料5:省略)を作成した。今後、これらの案に対して評議員会や広く会員から意見を伺い、夏の大会時の評議員会までに最終案をまとめたい。

なお、規約案を再度知的財産権等検討委員会に諮問することについては、保留している。

- (2) 講演要旨集の論文集化ならびに学会への著作権等譲渡については、引き続き、時間をかけて検討することとしたが、講演要旨作成における知的財産権の侵害が発生しないように、2008年大会分から発表者に下記の要望をすることにした。すなわち、著作権は基本的には発表者にあるとするが、引用した文献は出典がわかるように明記すること、転載された図表などについては許可が得られていること、学会の名誉を傷つけたり信用を毀損するような表現・その他倫理憲章に反するものを含まないこと、問題が発生した場合の責任は発表者が全て負うことなどである。

これらの案に対し、評議員からは、法務委員会設置のためにすぐに評議員会を招集することが可能か、法務委員会に幹事会メンバーを入れることははたして妥当であろうか、法務委員会の仕事は除名にかかわることだけでよいのかなどの指摘があり、幹事会でさらに検討をすることとした。

### 2. その他

- (1) INQUA 執行委員会(日本開催)への支援について

報告事項4-1(5)にあるように、2008年4月にINQUA 執行委員会が日本で開催される予定であり、奥村INQUA 副委員長から、執行委員会の開催準備の進捗状況と必要経費の説明(資料6:省略)があり、学会から人的ならびに資金面での援助をお願いしたい旨、要望があった。これに対し、幹事会では学会予算から10万円程度を援助するという提案を行い、承認された。

- (2) ジオパーク委員会等への対応

日本ジオパーク委員会から本学会へ委員推薦と支援体制整備の依頼があった(資料7:省略)。これに対し、第四紀学会ではジオパーク推進に積極的に参加し、また、昨年冬のシンポジウムなどでとりあげた露頭保存・遺跡保存運動、フィールド活用推進運動など学会独自のアウトリーチ活動も行う組織(特別委員会)を設置することについて、幹事会で検討していくという提案を行った。この方針について、承認された。

以上で、審議を終え、議長解任の上閉会した。

日時:2008年1月12日(土)10:00~15:00

場所:日本大学文理学部本館1階会議室B

出席者:町田 洋(会長)、遠藤邦彦(副会長)、吾妻 崇、岡崎浩子、苜谷愛彦、鈴木毅彦、三浦英樹、百原 新、中川庸幸(事務局)、水野清秀(記録)

(報告と関連する審議事項)

#### 1. 庶務

1) 会員動向:11月5名減(入会2名、退会7名)、12月2名増(入会2名)。2) 郵送物:4件(亀井節夫教授傘寿記念論文集/科学技術情報流通技術基準SIST/J-STAGE NEWS/深田研談話会案内)。3) 学会賞選考委員及び論文賞選考委員選挙:評議員による投票受付中(締切1月15日)。4) 研究委員会申請受付(5件)。5) 後援依頼(1件):2008北淡活断層シンポジウム(2008.1.12-1.13)。6) リポトリ登録許可依頼(静岡大学、1/7)

#### 2. 編集

1) 第四紀研究編集の進捗状況、「執筆要項」の見直しを進めていること、冬のシンポジウムなどの特集に関する編集の進め方・世話人の協力体制などのとりきめを報告した。2) 神戸大会の特集号は47巻3号の予定。3) 非会員の執筆者には今後本冊も送ることとした。4) J-STAGEで公開する論文のPDF設定内容について確認した。

#### 3. 行事

1) 2008年大会での発表の申込方法について電子メールでの申し込みでもよいことを確認した。2) 講演要旨作成においては、図表を転載する場合には転載許可を得ていることや、文献を引用する場合にはその文献が特定できるように表現することなどを執筆上の注意事項として記載することにした。

#### 4. 広報

1) 第四紀通信15巻1号の編集、印刷とホームページでの掲載状況を報告した。2) ホームページの更新状況、だいよんきQ&Aへの対応、メーリングリストの運用現況を報告した。3) ホームページ上での他の学協会とのリンクについて協議し、今後その基準を検討することとした。

#### 5. 渉外

1) 地球惑星科学連合2008年大会の日程と第四紀学会提案セッションの確認、予稿集原稿受付中:早期締切2月1日、最終締切2月7日。2) 自然史学会連合総会(12月16日)報告とロレックス賞への応募の呼びかけがあった。3) 「地質の日」事業推進委員会への学会の分担金をどうするか、今後検討することとした。

#### 6. 企画

1) 2008年2月2日に行うシンポジウムの資料集の印刷部数、教育委員会等関連機関へ配布するポスター等の確認を行った。2) 2007年冬のシンポジウム特集が地質ニュース2007年12月号に掲載された。

#### 7. 会計

1) 2007年12月31日現在での会計中間報告を行った。2) 会費滞納者に対して再度支払い請求を行い、対応がない場合は除籍扱いとする。3) 第四

紀研究の発行部数を100部減らし、印刷費の節約をはかりたい。

#### 8. 学術会議関連

1) 地球惑星科学委員会 INQUA 分科会(12月26日)の報告があった: INQUA 国内委員会の新体制、平成20年度代表派遣候補選考、INQUA プロジェクト提案2件準備中、INQUA 執行委員会対応、第21期会員・連携会員の推薦、国際対応分科会報告、国際対応委員会ヒアリング報告、国際シンポジウム報告、2015年 INQUA 招致の検討、2008年国内活動の検討、Quaternary International 特集号の提案(INQUA 招致に向けて日本の特集)。2) INQUA 執行委員会の日本開催予定の報告があった: 4月1~3日、日本学術会議にて。関連行事として関東南部巡検、レセプション、シンポジウム(4月4日東京と大阪で同時開催予定)を開催する。学会へ資金援助の要請があった。

#### (審議事項)

##### 1. 2007年度第2回評議員会資料

各幹事より評議員会用の資料が提出され、報告と審議事項を確認した。

##### 2. 研究委員会申請書の確認

2008年、新たに提案された研究委員会の申請書を確認した(「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」研究委員会、「地球温暖化問題」を検討する研究委員会、古気候変動研究委員会、テフラ・火山研究委員会、古地震研究委員会、以上5件)。今期より学会からの助成金を一律配分から計画書に基づいて配分額を調整することとし、評議員会での承認後に改めて支出を含めた年間計画書を提出してもらうことにした。また INQUA だけではなく関連する他の国際組織への対応も含めることや活動期間の変更など、8月に研究委員会内規の一部改定を行うことを前提に評議員会で審議してもらうことにした。

##### 3. 知的財産権に関する会則改訂案の検討

知的財産権等検討委員会から提案された会則改訂・法務委員会設置・除名細則案に対し、幹事会独自の案を作成して提示し、評議員会には中間報告とすることを決めた。会則改訂では、重大な倫理違反者に対して除名ができること、主としてその判断を行う法務委員会は必要が生じたときに設置できるようにすることを基本的な考えとした。

## 2007年度第6回幹事会議事録

日時: 2008年3月1日(土) 10:00 ~ 15:00

場所: 日本大学文理学部本館1階会議室B

出席者: 町田 洋(会長)、遠藤邦彦(副会長)、水野清秀、鈴木毅彦、公文富士夫、佐藤宏之、苅谷愛彦、三浦英樹、中川庸幸(事務局)、百原 新(記録)

#### (報告および議事)

##### 1. 庶務

1) 会員消息; 1月入会、賛助1社、退会、正会員1名、住所変更5件; 2月入会、学生1名、退会、正会員4名、住所変更5件、2) 受入図書、東京大学

海洋研究所 ニュースレターNo.16、財団法人東レ科学振興会 第57回講演会記録、3) 引用転載許諾4件承認、1件は著者本人への許諾必要として回答

##### 2. 編集

特集号を含む会誌編集状況の確認を行った。

##### 3. 広報

1) ホームページ Q & A では質問に至った経緯の項目を追加するなどの確に質問に答えられるような工夫をしていくこととした。2) メーリングリストサービスの委託先を春恒社に変更することとし、運用方法と移行措置について協議した。3) INQUA 委員招聘に伴う東京・大阪でのシンポジウム広報をホームページ、メーリングリストに掲載することとした。

##### 4. 行事

1) 地球惑星科学連合大会、第四紀学会大会案内について第四紀通信第2号原稿案を検討した。2) 知的財産権問題を含む「第四紀学会大会講演要旨執筆上の注意」について検討した。メール投稿用の発表申込書フォーマットを作成し、ホームページからダウンロードして講演要旨に添付して投稿できるようにすることとした。3) 来年の大会の場所を検討した。4) 2008年シンポジウムテーマ、タイトルについて検討した。世話人は三浦英樹会員、横山祐典会員ほかを予定。

##### 5. 企画

1) 2008年2月開催のシンポジウムの報告を行った。2) 6月7、8日に東北芸術工科大学で開催される講習会「土器の野焼きと調理に関する実験考古学」についての準備状況等の確認を行った。

##### 6. 渉外

3月14日の地球惑星科学連合の評議委員会に、町田会長、遠藤副会長、三浦会員、奥村会員が出席することとした。

##### 7. 幹事長

1) H20年度科研費審査委員候補推薦者については調整がとれず、見送ることとした。H21年度の候補者については、選挙方法を今後検討することとした。2) 日本ジオパーク委員会への支援体制について協議し、委員を町田会長とすること、支援委員会メンバーは3月の最初のジオパーク委員会準備会議のあと第四紀通信にのせて公募すること、支援組織の連絡担当者は水野会員が当面行うことを確認した。3) 第四紀学会会則改定案・除名規定追加修正に関する意見聴取のための第四紀通信原稿案を検討した。

##### 8. その他

1) 第四紀通信に研究委員会の趣旨・報告の記事を載せること、他学会を参考に申請書類のフォーマットを作成し、各研究委員会から支出計画を提出してもらい、次回幹事会で検討することとした。2) 今年度学会賞等選考の今後の手続きについて確認を行った。3) 幹事会資料は今後担当幹事が各々印刷して当日配布すること、幹事会議事録作成と次回幹事会日程調整は幹事会メンバーの持ち回りで行うこととした。4) 幹事会メンバーの役割を交代することとした。会計幹事: 吾妻会員、庶務幹事: 百原会員。

## 地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」の候補者募集案内

地球化学研究協会理事長 石渡良志

2008年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者を募集します。当協会会員及び関連諸学会会員からのご推薦の何れからでもお受けします。下記の要領でご応募下さい。申請書類は、地球化学研究協会のホームページからダウンロードして下さい。

1. 三宅賞  
対象：地球化学に顕著な業績を修めた研究者  
表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金30万円、毎年1件（1名）
2. 奨励賞  
対象：推薦締切日に35才以下で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者  
表彰内容：賞状および賞金10万円、毎年1件（1名）
3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績などを記入し、主な論文10編程度（三宅賞）、2編程度（奨励賞）を添えて、下記のあて先へ送付して下さい。応募書類等は、三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。
4. 締切日：2008年8月31日
5. 地球化学研究協会ホームページ：<http://www.soc.nii.ac.jp/gra/>
6. 応募先：〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5  
三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ  
（公益信託）地球化学研究基金 江川康治
7. 問い合わせ：地球化学研究協会事務担当まで、電子メールでお願いします。  
E-mail：t-sage(atmark)m3.gyao.ne.jp

## 第6回国際アジア海洋地質学会議のお知らせ

平成20年8月29日（金）～9月1日（月）の4日間、第6回国際アジア海洋地質学会議（6th International Conference on Asian Marine Geology: ICAMG VI）が高知工科大学にて開催されます。ICAMGは、アジア周辺海域の海洋地質学を研究する研究者が約4年毎に開催する学術会議です。現在2nd circularを公開中、事前参加登録および講演要旨投稿締め切りは4月10日です。アジアを含む世界各国から研究者が集い最新の研究成果を発表する機会ですので、皆様奮ってご参加ください。大学院生の参加支援プログラムも用意されています。

事前参加登録&講演要旨投稿締め切り 2008年4月10日

参加費用：

事前申し込み 全日程：25,000円、学生：15,000円（4月10日まで）

当日申し込み 全日程：30,000円、学生：20,000円、一日：10,000円

詳しくは下記公式ウェブサイトをご覧ください（日本語概要も閲覧できます）。

<http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/ICAMG6/>

問い合わせ先：第6回国際アジア海洋地質学会事務局

TEL/FAX 088-864-6705/088-878-2192

Email：icamg\_6(atmark)jamstec.go.jp



## 日本堆積学会 2008年弘前大会案内

日本堆積学会の2008年年会・総会を2008年4月25日～29日に弘前大学で開催いたします。当地の気候条件を考慮して例年より1ヶ月遅い開催となりますが、ちょうど当地は桜の季節です。また今回も、ショートコースから1泊2日の巡検まで魅力一杯の企画で皆さまの参加をお待ちしております。皆さまお誘い合わせのうえ、多数ご参加ください。

<http://sediment.jp/04nennkai/2008/annnai.html>

<日程> 2008年4月25日(金)～29日(火・祝)

25日(金): ショートコース「石油探鉱データを使用した地下地質堆積環境イメージング」

26日(土): 個人講演(基調講演を含む), 総会議事, 懇親会

27日(日): 個人講演(基調講演を含む), 最優秀口頭・ポスター発表の表彰, 堆積学トーク・トーク

28・29日(月・火): 巡検「下北半島の更新統田名部層(バリアー島堆積物や氷河性海水準変動に伴う開析谷とその埋積物など)」

<会場>

ショートコース: 弘前大学教育学部地学第1実験室

個人講演・総会・堆積学トーク・トーク: 弘前大学創立50周年記念館

(参照: <http://www.hirosaki-u.ac.jp/access/hirosakimap/index.html>)

<例会参加費(講演要旨集込み)>

一般会員 3,000円, 学生・院生会員 2,000円

非会員一般 4,000円, 非会員学生・院生 2,500円

<基調講演>

以下の4件の基調講演が一般講演の間に行われます。(アイウエオ順)

・井龍康文(名古屋大学環境学研究科)

「炭酸塩岩が語ってきたこと, これから語ること」

・氏家良博(弘前大学理工学部地球環境学科)

「有機物からみた続成作用」

・斎藤文紀(産業技術総合研究所地質情報研究部門)

「ダイナミックな地層形成の解明を目指して: メガデルタボーリングから何が読み取れるか」

・保柳康一(信州大学理学部地質科学科)

「堆積相から堆積システム, 海水準変動, 地球環境変動へ, 今, 堆積学のはたすべき役割」  
(仮題)

<個人講演募集>

口頭講演とポスター発表を募集します。

講演申込締切: 2008年3月14日(金)

講演要旨締切: 2008年3月21日(金) 17:00

<ショートコース>

「石油探鉱データを使用した地下地質堆積環境イメージング」

日時・場所: 4月25日(金) 13:00～18:00, 弘前大学教育学部地学第1実験室

講師: 中西健史(国際石油開発)

概要: 効率のよい石油探鉱をすすめる上で、地下地質の堆積環境を把握することは重要です。それは石油を蓄えている貯留岩の性状とその堆積環境とに密接な関係があるためです。本ショートコースは参加者に石油探鉱で取得される坑井データ及び地震探鉱データを用いた地下の堆積環境のイメージングエクササイズを通じて、堆積学の石油探鉱への適用、地下地質の不確実性、地下地質解釈の実践的アプローチを体感してもらうものです。

参加費: 500円

定員：10名（学生枠7名・一般枠3名）（先着順，会員優先）

< 巡検 >

下北半島の更新統田名部層（バリアー島堆積物や氷河性海水準変動に伴う開析谷とその埋積物など）（1泊2日）

集合：4月28日（月）朝，弘前大学（予定）

解散：4月29日（火）午後，青森空港・弘前駅・弘前大学（予定）

案内者：鎌田耕太郎・小岩直人（弘前大学）ほか

見学場所と対象：青森県むつ市周辺で，津軽海峡に面した海食崖に露出する，MIS5eの海進堆積物からなる段丘堆積物と，それに覆われる中～上部更新統田名部層を観察します。段丘堆積物は前浜堆積物とそれを覆う火山性土壌（ローム）からなり，後者には洞爺火山灰（Toya）を挟みます。田名部層は開析谷を埋積する沼沢地やエスチュアリー堆積物からなる層相変化にとんだ汐崎部層と，その上位に重なるサンドウェーブ堆積物を主とする石持納屋部層からなります。石持納屋部層の一部に海進期の堆積相としてラグーンからバリアー島へのサクセッションを伴います。このバリアー島堆積物は大部分が潮汐チャンネル堆積物で置き換わった産状を示し，波浪卓越型に属するとみなされます。また潮汐チャンネル内にはスピット堆積物の発達したことが読み取れます。露頭面の侵食状況により生痕化石の見事な産状も観察できます。

移動手段：貸切バス

参加費：15,000円前後（予定）

定員：30名（先着順，会員優先）

< 団体展示出展 >

個人講演開催期間中，年会会場にて企業・博物館・大学・研究グループによる展示出展が可能です（有料）。団体専用の展示ブースをご用意いたします。堆積学に関する研究や製品の紹介，広報宣伝，人材交流などにご利用ください。

< 懇親会 >

日時・場所：4月26日（土）18:00～20:00 弘前大学生協食堂「スコラム」

懇親会費：事前登録一般4,500円，事前登録学生1,500円，当日申し込み一般5,500円，当日申し込み学生2,000円

< 堆積学トーク・トーク >

日時・場所：4月27日（日）17:00～19:00 弘前大学50年記念館会議室

2日目の個人講演のあと，講演賞の顕彰に引き続いて開催します。堆積学トーク・トークでは，通常の講演よりもくだけた自由な雰囲気の中で研究発表や討論を楽しめます。

各種申し込み先など詳しくは，日本堆積学会ホームページ（URL: <http://sediment.jp/>）をご覧ください。堆積学会会員は年会参加費や各種企画の参加時に優遇されます。まだ入会しておられない方は，この機会に是非ご入会下さい。

## 訃報 劉 東生 元国際第四紀学連合（INQUA）会長

1991年から1995年まで国際第四紀学連合（INQUA）会長をつとめられた，中国科学院の劉 東生先生が3月6日に逝去されました。劉 東生先生は黄土高原のレス層序と編年を詳細に解明されて，海洋底や遠隔地との対比を確立するうえで大きな業績をあげられました。日本の第四紀研究にも大きな影響を与えられた先生を追悼し，謹んでご冥福をお祈りいたします。

会長 町田 洋

## 第52回粘土科学討論会（日本第四紀学会共催）のお知らせ

主催：日本粘土学会

共催：資源・素材学会，資源地質学会，ゼオライト学会，地盤工学会，日本化学会，日本火山学会，日本鉱物科学会，日本セラミックス協会，日本セラミックス協会原料部会，日本第四紀学会，日本地学教育学会，日本地球化学会，日本地質学会，日本土壌肥料学会，日本熱測定学会，日本ペドロロジー学会，農業土木学会（予定，50音順）

会期：2008年9月3日（水）～5日（金）

会場：沖縄ポートホテル

〒900-0036 沖縄県那覇市西1-6-1, TEL, 098-868-1118（代）, FAX. 098-868-2189

講演：A. 一般講演（口頭発表，ポスター発表，提案型セッション）

B. 会長講演 坂本尚史（千葉科学大学）

C. シンポジウム「エネルギーと粘土」

一般講演の申込：

申込方法・・・日本粘土学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/Index.html>)からお申込みください。講演ごとに1通の参加申し込みフォームをお送りください。講演概要はプログラム編成に使用いたしますが，合わせて日本粘土学会ホームページに討論会プログラムとともに公表しますこと，ご了承ください。なお，発表者の内1名は本学会会員であることが必要です。Webページが使えない場合は，下記問合先（1）あてへお問い合わせください。

申込開始・・・2008年5月13日（火）12:00～

申込締切・・・2008年6月10日（火）必着です。webページからの申込の場合は確認のための返信をいたしますので，返信がない場合は再度ご連絡をお願いいたします。

参加登録料：会員（共催学会員を含む）3,000円，学生会員1,000円，非会員5,000円

講演要旨集代：3,000円

講演要旨締切：2008年7月25日（金）必着

懇親会：9月3日（水）18:30～ 沖縄ポートホテル

懇親会会費：一般6,000円，学生3,000円

官製はがきに参加者氏名・所属を記入して下記問合先（2）にお送り下さい。

見学会：9月5日（金）工業技術センター，やちむんの里 - 読谷，美ら海水族館，万座毛（ノジュール）（予定）

見学会会費：未定

官製はがきに参加者氏名・所属を記入して下記問合先（2）にお送り下さい。

問合先（1）（講演・講演要旨送付先）：

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

琉球大学農学部生産環境学科農地環境管理学講座内

第52回粘土科学討論会実行委員会 金城和俊（渡嘉敷義活 気付）

TEL 098-895-8778 FAX 098-895-8734

電子メールアドレス：wa614(atmark)yahoo.co.jp

問合先（2）（懇親会・見学会申込先）：

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

琉球大学農学部生産環境学科農地環境管理学講座内

第52回粘土科学討論会実行委員会 渡嘉敷義治

TEL 098-895-8778 FAX 098-895-8734

電子メールアドレス：toka2841(atmark)agr.u-ryukyu.ac.jp

〒901-0155 沖縄県那覇市金城4丁目1番地3

サザンツーリスト株式会社 担当者・友寄兼造，玉寄哲也

TEL 098-891-8000（代表） FAX 098-891-8005

電子メールアドレス：tomoyose(atmark)salada.co.jp

## 学生会員の皆さまへ「学生会員継続届」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届」として提出して頂くことになっています。

2008年度(2008年8月1日～2009年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2008年6月30日(月)までに日本第四紀学会事務局まで郵送してください。本届が提出されない場合は、2008年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意下さい。

なお、2007年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合せ・送付先：〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町519番地  
洛陽ビル3階 日本第四紀学会事務局  
E-mail: daiyonki(atmark)shunkosha.com  
TEL: 03-5291-6231 / FAX: 03-5291-2176

提出方法：郵便に限ります。

### 第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：苅谷愛彦(kariya(atmark)isc.senshu-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 苅谷愛彦  
〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 電話: 044-911-1014 Fax: 044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局  
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階  
E-mail: daiyonki(atmark)shunkosha.com  
電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176